

空の移動革命に向けた官民協議会 ～空飛ぶクルマに関する取り組み～

資料 4 - 3

野村不動産株式会社 事業創発本部



複合開発事業

Mixed-Use Development



新領域事業

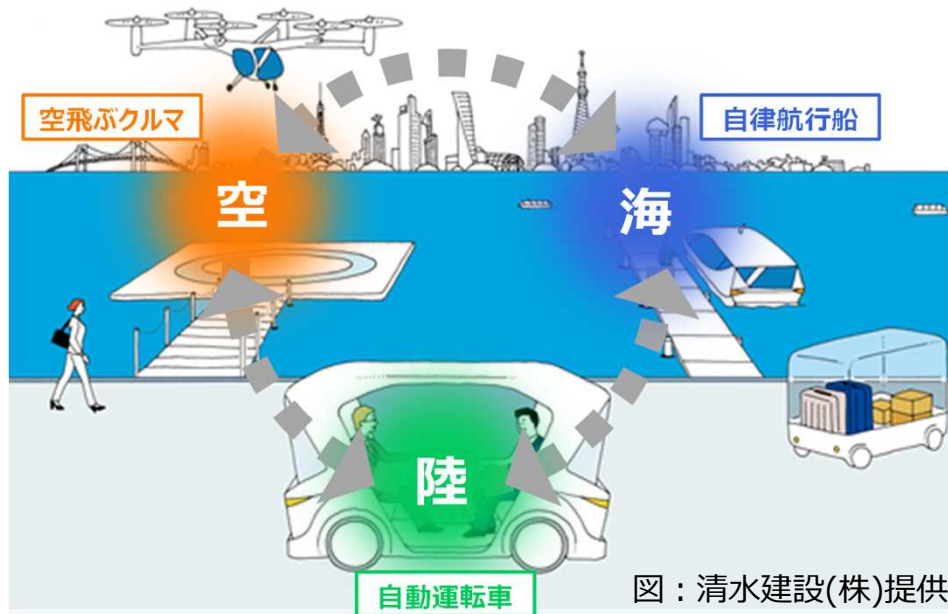
New business fields



- ◆ 多様なアセットの知見を活かし、地域課題や社会問題の解決に資するような複合開発事業を推進。
- ◆ 移り変わりゆく社会ニーズを踏まえた、新たな価値創造にも取り組む。

あしたを、つなぐ ― 野村不動産グループ

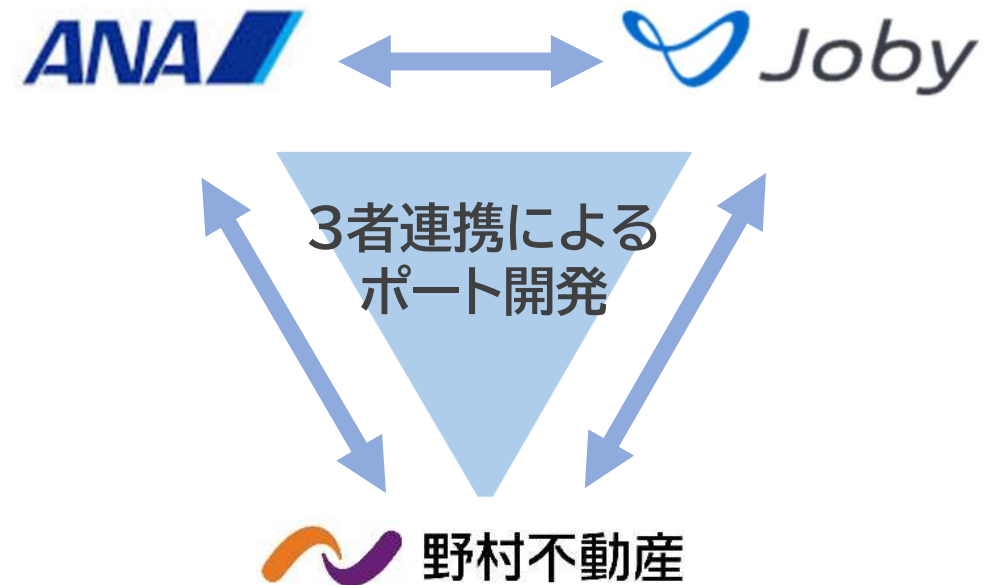
■ 東京ベイeSGプロジェクト 先行プロジェクト



<プロジェクト概要>

- ✓ 主催者 : 東京都
- ✓ 実証期間 : 令和5年度～令和7年度
- ✓ 連携事業者 : 清水建設(株)、ANAホールディングス(株)、朝日航洋(株)、(株)Kidou Systems、(株)エイトノット、東京ウォータータクシー(株)、Joby Aviation, Inc.

■ ANAHD、Joby Aviationとの共同検討



<当社役割>

- ✓ 当社不動産アセットにおけるポート開発
- ✓ 不動産開発のノウハウを活かしたポートの需要分析
- ✓ 地方自治体とのチャネルを活かした行政折衝（受容性向上や環境アセス対応等）等

- ◆ 空飛ぶクルマ用浮体式ポートを核とした、陸海空の次世代モビリティの社会実装に向けた実証事業を推進。
- ◆ 事業化に向け、ANA / JOBYと空飛ぶクルマの離着陸場開発に係る共同検討の覚書を締結。

■ 駅前再開発時の一体開発



✓鉄道からの二次交通として機能し、駅の機能強化だけでなく、広域エリアでのネットワーク構築も可能になる。

■ バイエリアでの開発



✓バイエリアは比較的空域も確保しやすく、先行的に普及が進むポテンシャルがあり、水辺の賑わい創出にも大きく寄与する。

多様なアセットの活用や多拠点化のノウハウ等も活かし、バーティポートの展開を進める。

<現況>

- ◆ 空飛ぶクルマだけでなく、CASEと呼ばれる100年に1度の自動車分野の技術革新など、**モビリティ分野は大きな転換期**を迎えている。



<まちづくりへの影響>

- ◆ 次世代モビリティの普及により、例えば空飛ぶクルマの大規模離着陸場を中心とし、そこからのラストマイルを自動運転車両で繋ぐなどにより、**全く新しい都市の形成プロセス**が生まれる可能性もある。
- ◆ また、移動手段の多様化・高度化は、**サステナビリティの向上や都市機能の強化**等の社会課題の解決にもつながる。



<取組方針>

- ◆ 東京ベイeSGプロジェクト 先行プロジェクトにおいて、空飛ぶクルマからの2次交通も含めた課題抽出を行うと共に、**当社事業への導入を検討し、次世代の街づくりを実現**する。